# 一·西南学院大学· 図書館報

No. 108

1986(昭和61)年7月3日発行

〒 814

福岡市早良区西新 6 丁目 2 番92号

西南学院大学図書館



# 啄木の歌のことども

文学部教授 長 洋 一

先日、生協書籍部で『啄木歌集』(岩波文庫) を買った。中学・高校・大学の頃―それは第二 次大戦中から戦後の混乱期になるが、私は啄木 の歌をよく読んだものである。ところが、転居 を何度か繰り返すうちに、父の書架にあった 『一握の砂』と題した小さな歌集は行方不明と なっていた。

はたらけどはたらけど猶わが生活楽にならざ りぢっと手を見る。

まだ働く実感のない脛かじりの私ではあったが、 親の脛の細さは実感していた。

わが抱く思想はすべて金なきに因するごとし 秋の風吹く

病に長く臥せていた時、本当に金が欲しいと思ったことがある。

高校三年生の時、私は社研部に入っていた。 一年下に、現在福岡市で弁護士として活躍して いる小野山裕治君がいて、当時、何かの折に彼 の家に遊びに行った。彼は粕屋郡宇美町にいた が、彼の部屋の机の上に啄木の歌が二首書いて おいてあった。

やはらかに柳あおめる北上の岸辺目に見ゆ泣 けとごとくに

かぎりなき知識の欲に燃ゆる眼を姉は傷みき 人恋うるかと

私はこの歌をよんで、彼のロマンティシズムを感じた。私のややひねた形の啄木の歌への接近にくらべると彼は純粋であったが、私達はそれぞれの形で啄木の世界に分け入っていたのであ

る。

この私が今度あらたに『啄木歌集』を手にして読んでいくうちに探した一つの歌があった。 地図の上朝鮮国にくろぐろと墨をぬりつつ秋

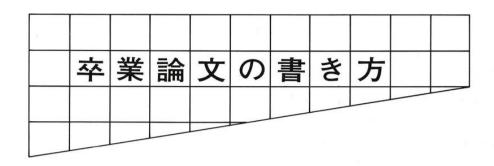
地図の上朝鮮国にくろぐろと墨をぬりつつ秋 風を聴く

私はかってこの歌を「一握の砂」あるいは「悲しき玩具」の中で読んだと思って、今度の歌集でもそこを何度か探したが見つからなかった。おかしいなと思って「補遺」の所を見たら、明治四十三年九月九日の夜の「九月の夜の不平」と題した八首の中の一つとして出ていた。時に石川啄木は二十五才である。この年八月二十九日には韓国併合に関する宣言が発表され、朝鮮総督府が設置されていた。

明治の青年石川啄木は、この朝鮮民族の悲運に思いをはせていった。そして時代閉塞の状況の中で、地図の上の朝鮮国にくろぐろとぬった 墨は、その下に朝鮮総督府をもぬりつぶしていたのである。しかし啄木自身、その墨で自分の手がよごれたのに気づいていただろう。

明治四十五年四月十三日、啄木は没した。二十七才の若さであったが、彼の短い生涯には、 わが国の明治維新以後の歴史が凝縮されているように思われる。啄木には歌の外に散文詩や評論があり、私の学生時代に岩波書店からそれらをもまとめた啄木の全集がでた。それらを使って、集中講義にみえた近代史の遠山茂樹氏のレポートを書いたことを思い出す。

(ちょう よういち:日本文化史)



#### 文学部助教授 大 谷 裕 文

本格的な卒業論文の作成には、長期に渡る粘り強い努力が必要とされる。しかし、多くの卒業生が述べるように、卒業論文に取り組み、それを仕上げることは、大学生活4年間の勉学において、「最も思い出深い経験」となる。ここでは、本格的な卒業論文の作成について、若干のポイントを指摘しておくことにしよう。

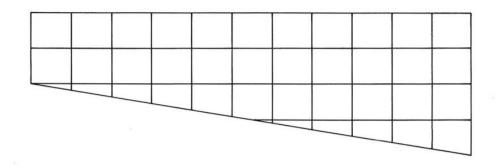
- ② まず、最初の課題はテーマの決定である。テーマ決定のための一般的な方法は、興味や関心をもつことのできる問題をリストアップし、その中からテーマを見つけることである。そのような問題が見あたらない場合、問題を捜し出すための読書が必要となる。さらに、どうしても独力でテーマを設定できない人は、できるだけ早くゼミの先生に相談すべきである。もう一つ重要なことは、問題意識は拡散していくことが多いので、可能なかぎり狭くテーマを限定することである。
- ⑤ 次に、決定されたテーマに従って、文献・資料の収集を行わねばならない。この場合、卒業論文といえども、できるだけ一次資料を重視すべきである(最近、増加しつつある一冊の著作の単なる要約や一篇の論文のダイジェストなどは論外である)。
- ② 収集された文献・資料は読み込まれなければならない。読み込みに際しては、面倒でも、

カードに事実と解釈を記録していくことが望ま しい。記録された事実と解釈を論文の枠組の中 に配置するとき、操作性に大きな差がでてくる ので、ノートよりもカードのほうがよい。カー ドには、内容を指示する見出し用語、著者名、 書名、頁数、内容(直接引用か該当箇所の要約)、 日付、自己の再解釈などを記入していく。この 場合、一項目につきカード一枚の原則を貫いた ほうがよい。

- ② いよいよ、論文の執筆である。③までの 準備が充分であれば、執筆それじたいには、それほど時間はかからない。執筆に際しては、誤 字、脱字、用語法に注意することはもちろんで あるが、何よりも自分の考えと他者のそれとを 区別して、引用を厳密に行わなければならない。 最後に、全体をもう一度読み直し、ビブリオグ ラフィをつけて提出する。

以上、卒業論文作成のための一般的なポイントについて述べたが、一人でも多くの学生諸君が、要約やダイジェストではなく、本格的な卒業論文に取り組まれることを期待したい。

(おおたに ひろふみ:文化人類学)



商学部講師 吉 武 春 光

私は理系の出身であり、今迄に「卒業するのに必要な論文」に相当するものを4編書いている。それは、まず九州大学工学部冶金学科の卒業論文。次に学士入学した情報工学科の卒業論文。それから大学院に進んで、総合理工学研究科・情報システム学専攻の修士論文。そして最後に博士論文である。私が学生の卒論を担当し始めたのは修士2年の時からである。そして今迄5年間で卒論生8名、修論生8名の指導をしてきた。以下私の経験に基づき、卒業の為に必要な論文の書き方を述べる。但し、これはあくまでも理系の卒論の書き方についてである。

理系の卒論の場合は、文系における3年、4年時の"ゼミ"という制度ではなく、4年時に指導教官が受け持っている"研究室"に配属になり、1年間、朝から晩まで卒業研究に没頭することになる。卒論では、指導教官から与えられたテーマ及び計画の下で、ただ、がむしゃらに実験を行う。実験が主体である為、論文そのものの執筆は約2ヶ月程度で済ませている。

学部の本論の書き方についての注意点は以下 のようなものである。

まず論文のテーマ(つまり主題)を指導教官 といっしょに十分に話し合って決定することが 大事である。次にそのテーマに沿った基礎事項 の学習や、同種の卒論、修論、学会論文などに

目を通すことが必要である。それから実験計画、 論文の執筆計画をたてる。実験の進め方につい ては省略する。論文の文章の組み立ては、起承 転結をはっきりさせ、概要から細部へと話を進 めること (これを我々は "Top-down に話を 進める"と言っている。) が大事である。論文 をまとめる際に色々な資料をまとめていくには 川喜田二郎氏のKJ法などを用いるとよい。ま た文章は、複雑な埋め込み文は避けて、短く簡 潔に書くことが必要である。できるだけ受動表 現は使わずに能動表現のみを用いるのが望まし い。はっきりと言い切る姿勢が大事である。事 実と意見は違うのである。文系の人にもこの点 は特に注意してほしい。また、学部では受身の 姿勢で授業を受けていた学生が、初めて自分で 積極的に、前向きに取り組むものとなる。いつ も、"なぜ (Why)"かということを考えて取 り組んでもらいたい。尚、次の参考文献は皆さ んにぜひとも目を通してもらいたい。明快で論 理的な文章を書く手助けになると思う。

参考文献:木下是雄著、「理科系の作文技術」 中公新書 6 2 4、中央公論社 (096 / 816 / 1)

(よしたけ はるみつ:情報処理論)



法学部 4年 萩 原 健

大学では、サークルやゼミに打ち込み、協調性、積極性、創造性を培い、副広い人間関係を形成していくことが必要だと思います。そして、その人間関係をふまえた上で、しっかりした専門知識と教養を有していることは、不可欠です。そこで、夏休みという自由な時間を有効に活用して、講義などの受け身の勉強ではなく、図書館で自主的に専攻科目を研究してみたり、又、気軽に面白そうな本を手にとって読んでみては

どうでしょうか。長い休暇を何の目的もなく漠然と時間を費してしまうのも勿体ないし、このような些細で雑多な知識が将来どこかで役に立つでしょうし、彼(彼女)から、教養人として尊敬されるかも……。

それに、夏休みが終了すると同時に、前期試験となります。ここで、大抵の人は、勉強をせねばと思うのですが、夏休みにしっかり身についてしまった悪習慣のおかげで、中々体がついてきてくれません。これを矯正するために、お盆を過ぎたら、図書館を利用されることをお薦めします。図書館は、涼しく快適ですし、周囲からの誘惑も少なく勉強に専念できます。

夏休みの図書館利用ということで私なりの意見を書きましたが、ひとそれぞれの色々な図書館利用法があると思います。是非、この夏、自己流の方法で、図書館を利用されては、いかがですか。受付で、おニャン子クラブとはいえないまでもきれいな事務のお姉さま方がきっとあなたを笑顔で歓迎して下さいますよ。

(はぎわら けん:法律学科)

## 気楽に読める専門書(1)

このコーナーでは、各学科主任の先生に登場していただき、その先生の専門分野の本の中で、一般的な教養書としても気軽に十分楽しめるものを御紹介いただきます。9回シリーズ予定。

# 『新約聖書』・その注と解説

神学部神学科主任 中 村 和 夫

『愛と苦しみ・またその勝利』は、いつまでも変らない人間の課題である。年の終わりごとにマタイ受難曲とハレルヤ・コーラスはいたるところで繰り返される。そして新約聖書全巻の主題こそ、この受難と愛の勝利である。聖書のように千数百という多くの言語に訳され、毎年毎年ベスト・セラーを続ける書物はない。

神学科の場合は取得すべき専門科目八四単位 のうち、多くの学生が、新訳聖書関係でギリシ ア語 (Ⅰ、Ⅱ)、緒論、釈義、原典、神学、合わ せて二八単位を履修する。旧訳聖書関係を合わ せると、優に八四単位の過半数を聖書研究のた めに履修するのである。この場合、聖書一巻が 中心的な専門書なのである。宗教改革以来、聖 書は民衆の書物になって多くの言葉に訳された。 しかし、その後も長いあいだ聖書は読み易い書 物にはならなかった。聖書の出版には奇妙な制 限があったのである。日本聖書協会もその定款 に従って、明治訳、大正訳、現行の口語訳すべ て、序文その他の解説を付けずに出版してきた。 発行所名、出版年月日と目次、引照聖句、そし て巻末の地図を除けば一切の説明を加えずに印 刷されている。また聖書は『誤りなき神の言葉』 であると強調されたためであろう。これらの日本語聖書は、どれも改訂版が試みられなかった。第二ヴァチカン公会議以来カトリック教会の聖書翻訳と聖書研究の熱意は、たいへん目覚ましいものがある。カトリックでは、注を付けない聖書を出版することは許されない。ここに顕著な相違がある。例えば、新約聖書、フランシスコ会聖書研究所訳注、中央出版社、1979年の場合をあげよう(研究用のより詳しい分冊聖書も出版されている)。これには5頁におよぶ『はしがき』が付され、経過説明があり、用語の統一や当用漢字の用いかた等を説明している。この聖書には、小見出し、並行箇所、傍注、区分ごとの解説などがあって、聖書が生活の中、家庭の中で座右の書となるようにとの配慮がある。

口語訳聖書が出版されて後30数年を経て、このたび日本聖書協会は装いを新たにした『共同訳聖書』を出版する。翻訳は最終段階に来ており、出版も間近いであろう。外国語の場合も含めて、この古典中の古典は、ますます読み易い形の出版が試みられるようになるであろう。

(なかむら かずお 神学部教授 新約聖書ギリシャ語)

#### 図書館各種統計 昭和60年度

## どんな内容のものがどれだけ増加したか。

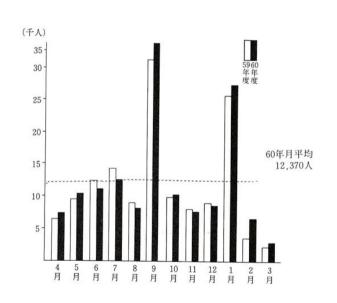
	書																		(単位	立:冊数)
	分類	C	)		l	2	2	3	4		5		6		7	- ;	8	9	9	計
区分		総	記	哲	学	歴	史	社会科学	自然科学	I	学	産	業	芸	術	語	学	文	学	
和	書	×	772	1,	002		848	5,214	788		393		687		649		333	1,	344	12,030
洋	書	3	886		680		550	2,067	226		100		319		224	1,	038	1,	748	7,838
言	t	1,	658	1,	682	1,	398	7,281	1,014		493	1	,006		873	1.	371	3,	092	19,868
59年 和洋	度合計	1,	273	1,	813	1,	453	10,144	918		589	1	,183	1	,078	1.	,081	3,	509	23,041

#### ○視聴覚資料

レコード	テープ	マイクロフィルム	マイクロフィッシュ	フィルム	スライド	絵 話	フロッピイ ディスク	ビデオテープ	計
86 枚	63リール	602リール	36 点	2 本	0 本	0 点	49 枚	27リール	865件

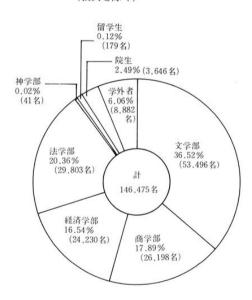
#### ● この2年間にどれだけ利用されたか。

#### ○入館者数 (月別)



#### ○学部別入館者数(割合)

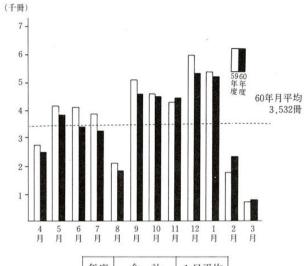
(教員を除く)



年度	合 計	1日平均
59	141,483人	518人
60	148,449	536

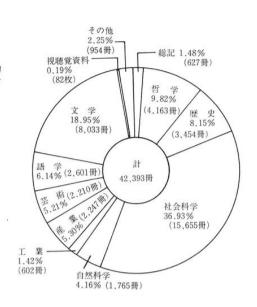
(59年度 開館日数 273日) 60年度 開館日数 277日)

#### ○館外貸出冊数



年度	合 計	1日平均
59	44,936冊	165冊
60	42,393	153

#### ○主題別貸出冊数 (割合)

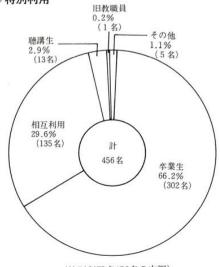


#### ● その他の利用統計

#### ○文献複写

利用者	種別	電子	複 写	マイクロフ からの引伸	ィルム
学	教員	1,092件	31,497枚	16件	805枚
内	学生	4,499	43,647	0	0
学	外	913	13,177	0	0
合	計	6,504	88,321	16	805





(特別利用者456名の内訳)

0	他大学図書館へ本	学学生	の相互利用	用希望	77件(51)
0	視聴覚機器貸出				3件(0)
0	学生の図書購入希		83件(163)		
0	投 書				0件(3)
0;	紛失弁償図書冊数	ζ			25件(15)
0	閉架図書閲覧者			3,878	3名(3,828)
	その内訳	卒業	論文	2	292名(480)
		図	書	1,544	4名(1,341)
		レコ	ード		40名(45)
		新聞	・雑誌	1,982	2名(1,960)
		紙は	艺居		20名(2)

※ ( )内は59年度

#### ☆ ニュース・お知らせ ☆

#### <図書館委員会>

- 61.4.17 ① 昭和60年度図書館決算について
  - ② 昭和61年度共通研究図書費、 一般図書費および新聞雑誌費に ついて
  - ③ 図書館文献複写規則の一部改 正について
- 61.5.2 ① 昭和61年度私大助成の申請に ついて
- 61.5.29 ① 図書館電算機種選定委員会規 則(案)について

#### <研修・出張>

- ○福岡オンライン研修会
  - 61.4.23 於:福岡天神センタービル 有森司書出席
- ○私立大学図書館協会西地区部会 昭和61年 度第1回九州地区協議会
  - 61.4.24 於:福岡市・セントラルホテル フクオカ

川島館長、刀根事務次長、今永課長、荒川係長出席

- ○第37回九州地区大学図書館協議会 総会 61.4.25 於:福岡市・はかた会館 川島館長、刀根事務次長、今永課長、荒 川係長出席
- ○昭和61年度福岡県、佐賀県大学図書館協議 会 総会
  - 61.5.28 於:八幡大学

刀根事務次長、今永課長、倉光係長出席

- ○昭和61年度私立大学図書館協会西地区部会 及び同役員会
  - 61.6.5、6 於:四国学院大学 刀根事務次長、今永課長出席

#### 

#### ○夏休み長期貸出

7月1日(火)より。

貸出対象は学部学生、専攻科生、大学院 生で、冊数は5冊以内(大学院生は20冊 まで)返却期限は9月18日(水)まで。

○夏季休暇中の開館および休館

開館 日曜日を除く毎日 9:15~21:00 休館 7月28日(月)、29日(火)は職員夏期修 養会のため。

8月13日(水)、14日(木)、15日(金)は夏季特別一斉休暇のため。

1 階学習室は休暇中閉室

#### ○卒業年次生のための特別利用

① 貸 出

卒論作成のための貸出があります。通 常の貸出のほかに3冊以内、1ヶ月間 利用することができます。また、修士 ・博士論文作成のため、通常の貸出の ほかに5冊以内、2ヵ月間利用するこ とができます。ともにグリーンの卒論 用帯出証で利用します。

- ② 先輩の卒業論文の閲覧 卒論作成の参考に諸先輩の卒論を閲覧 することができます。
- ①、②いずれもゼミ担当教授の承認を得なければなりませんので、希望者はあらかじめ受付に申し出て用紙の交付をうけてください。

西南学院大学図書館報

Mo.108 1986 (昭和61) 年7月3日発行

編集 館報編集委員会

発行 西南学院大学図書館 〒814 福岡市早良区西新6丁目2番92号 TEL(092)841-1311代)

## 昭和61年度 指定図書目録

(Reserved Books)

指定図書とは、講義担当の先生方が、その講義に直接関係して学生に必ず参考にしてもらいたい図書を指定されたものです。年間を通じて2階閲覧室に備えています。なお、講義区分は学生便覧を参考にしました。

#### 一般教育科目

#### 菱 谷 晋 介<心理学(1)·(2)>

フロイト 講談社 講談社 講談社 間題解決の心理学 中央公論 地平の月はなぜ大きいか 講談社 新しい科学論 講談社

#### 岩 尾 龍太郎(倫理学)

#### 唐木田 芳 文<地学>

一般地質学 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ホームズ 東大出版会

#### 城 戸 春分生<保健体育講義Ⅱ>

現代の生物学 理工学社

#### 古 賀 衛〈法学〉

判例による民法入門 中川善之助 青林書院新社 ケースメソッド法学・憲法入門 中川淳(他)有信堂 別冊ジュリスト・憲法判例百選 有斐閣 別冊ジュリスト・民法判例百選 有斐閣 別冊ジュリスト・刑法判例百選 有斐閣

#### **松** 原 **宏**<人文地理学(1)·(2)>

最近の地理学 坂本英夫 (他) 大明堂 不平等の地理学 スミス 古今書院 人文地理学入門 中藤康俊 古今書院 人文地理学入門 浮田典良 朝倉書店

タウン・ウォッチング 博報堂生活総合研究社

PHP研究所

#### 森 泰 男<キリスト教学Ⅱ>

現代神学の状況 ガイヤー 日本基督教団出版局 キリスト教思想史入門 金子晴勇

日本基督教団出版局

カール・バルト著作集 (第 8 巻) 新教出版 「同伴者」イエス 荒井献 新地書房 パンセ パスカル 新教出版

#### <キリスト教学Ⅲ>

評伝シモーヌ・ヴェイユ ペトルマン 勁草書房 シモーヌ・ヴェーユ最後の日々 カボー

みすず書房

さいごのシモーヌ・ヴェイユ 田辺保 お茶の水書房 超自然的認識 ヴェイユ 勁草書房 シモーヌ・ヴェイユ 田辺保 講談社

<キリスト教学Ⅳ>

カール・バルト著作集(第 5 巻) 新教出版 創造論 IV / 1 ~ 4 バルト 新教出版 バルト 大木英夫 講談社 主体と超越 小川圭治 創文社 キリスト者の自由 ルター 新地書房

#### 中 村 栄 子<西洋文学>

ギリシア・ローマ神話 I・II・II シュヴァープ 白水社 旧約聖書物語 犬養道子 新潮社 ギリシア・ローマ神話 ブルフィンチ 岩波書店 中世騎士物語 ブルフィンチ 岩波書店 ギリシア・ローマ神話辞典 高津春繁 岩波書店

#### 中 村 和 夫<キリスト教学Ⅲ>

使徒たちの遺産・新約聖書の諸教会 ブラウン

ヨルダン社

<キリスト教学Ⅰ・Ⅲ>

総説新約聖書 荒井献(他) 日本基督教団出版局 佐々木 直 井<生物学>

生理学通論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 鈴木(他) 共立出版

#### 佐々木 武 夫<社会学>

家族 正岡寛司 学文社 日本人の選挙行動 東大出版社 国際比較・ニッポンを診る 中央法規 新中間大衆の時代 村上泰亮 中央公論社 マックス・ウェーバー 住谷一彦 日本放送出版協会 シィート・L・K・ <キリスト教学Ⅱ>

キリスト教概論<br/>人はなぜ生きるか<br/>光あるうちに熊谷政喜(他)<br/>井上洋治<br/>三浦綾子新教出版<br/>講談社<br/>主婦の友社

<キリスト教学IV>

汝の敵を愛せよ キング

新教出版

柴 田 徳太郎 <経済学B >

 経済学 字野弘蔵
 角川書店

 経済学 I・II 桜井・山口(他)
 有斐閣

 経済学概論 大内力(他)
 東大出版会

 現代の景気と恐慌 大内力
 有斐閣

 経済学 日高普
 岩波書店

立 川 順 子<英語>

ジャパニーズ・アメリカン ウィルソン (他) 有斐閣 アメリカの中の日本人 キタノ, H 東洋経済新報社

田 村 茂 夫<法学>

 現代法理論
 田中成明
 有變閣

 現代法学論義
 磯村哲
 有變閣

 教材法学入門
 伊藤正己(他)
 有變閣

 現代法哲学
 長尾治助
 東大出版会

 法社会学序説
 石村善助
 岩波書店

#### 文 学 部 (英語・英文)

#### 安 徳 典 光 (英作文)

Errors and expections. Shaughnessy

Oxford Univ.

A practical English grammar (New ed.)

Martinet Oxford Univ.

英語前置詞副詞活用辞典 ロングマン社

秀文インターナショナル

英国社会階層と文体 スコットオースマン社

秀文インターナショナル

現代英語書き方事典 スコットオースマン社

秀文インターナショナル

#### 〈演習〉

Business communication. Lesikar

Richard D. Irwin
Business letters for all. Naterop Oxford Univ.
Handbook of business letters McGraw-Hill
The language of business. Mack BBC

#### 江 崎 義 彦<演習Ⅱ>

William Wordsworth: The Prelude (Ⅰ · Ⅱ)

前川俊一 研究社 若きワーヅワス 前川俊一 英宝社 ワーズワスの詩の変遷 金田真澄 北星堂書店 ワーズワスの研究 (増補改定) 原一郎 北星堂書店 ワーズワス・「序曲」 国文社

< 英米文学講読>

荒地・ゲロンチョン 森山泰夫(他) 大修館四つの四重奏 森山泰夫(他) 大修館

T.S.Eliot 平井正穂

研究社

富山房

イエイツ・エリオット・オーデン 平井正穂

筑摩書房

エリオットと詩の問題 熊代荘歩 北星堂書店

<英米文学研究>

英国ロマン派の詩と想像力加納秀夫大修館キーツのオード小川和夫大修館キーツ論考阪田勝三南雲堂キーツ松浦暢吾妻書房

キーツ・詩人の手紙 田村英之助 (訳)

**マス子**<コミュニケーション特殊講義>

日本人英語の科学 竹蓋幸生 研究社 ヒアリングの行動科学 竹蓋幸生 研究社 コンピューターの見た現代英語 竹蓋幸生 エデュカ 英語教師のパソコン 竹蓋幸生 エデュカ

<スピーチA>

Basic oral communication. Capp

Prentice - Hall

Speech communication and human interaction.

Scheidel Scott, Foresman

The Bases of public speaking グロフ 三修社 Pathways to speech. Elin Learning Treuds

<スピーチB>

オーラルインタープリテーション入門 近江誠 大修館 Storytelling handbook. Breneman 学書房

Improving oral English through choral

speaking. Larson 学書房

The handbook of storytelling. Hunsingu

英潮社

#### <演 習>

Communication in face to face interaction.

Hutcheson

Penguin

Basic readings in communication theory.

Mortensen Harper & Row

Cross cultural universals of affective

meaning, Osgood (他) Univ. of Ill. Press

<コミュニケーション概論>

Basic readings in communication theory.

Mortensen Harper & Row

Nonverbal communication in human interaction.

Knapp Holt Rinhart & Winston

The functions of human comm. : a theoretical approach. Dance Holt Rinhart & Winston Intercultural comm. : a reader (4th ed.)

Porter

Wodsworth

#### 文 学 部 (フランス語)

中 村 栄 子<時事フランス語>

新聞のフランス語 小林茂

白水社

#### 太 田 和 男<フランス文学講読>

Yoko Tsuno. Le trio de l'etrange Leloup

Dupuis

Yoko Tsuno, électronicienne (No. 2,7,9,12)

<フランス語(6)・(8)>

Leloup

Les aventures électroniques

Depuis

#### 富 盛 伸 夫<言語学>

ソシュール小事典 丸山圭三郎(他) 大修館 岩波書店 外国語上達法 千野栄一 注文の多い言語学 千野栄一 大修館 ことばと文化 鈴木孝夫 岩波書店 説きがたり・記号論 山口昌男(他) 日本ブリタニカ

#### 文 学 部 (児童教育)

#### 菱 谷 晋 介<心理学実験演習>

実験とテスト (実習編) 培風館 実験とテスト (解説編) 培風館 精神測定法 培風館 教育心理・統計法要説 明治図書

#### <演 習>

心像 リチャードソン 紀伊国屋 イメージの基礎心理学 水島恵一(他) 誠信書房 記憶の科学 ノーマン 紀伊国屋 人間の情報処理 ルーメルハート サイエンス社 サイエンス社 認知の講図

#### <教育心理学Ⅱ>

教育心理学入門 福村出版 教育心理学の基礎知識 福村出版 ナカニシヤ 目でみる教育心理学 学習と教授の心理学 九大出版会 人間教育心理学 有裴陽

#### 井 上 哲 雄〈臨床心理学〉

他己との関わり方 外岡豊彦 柏樹社 面接の技法 大段智亮 メディカルフレンド社 続・私の助力論~人間関係の条件 大段智亮

医学書院

治療心理学 プラマー

誠信書房

#### <演習>

自閉症の治療教育プログラム ショプラー(他)

ぶどう社

自閉症児 (新訂増補) 川島書店 ぶどう社 はぐくむ1・2 森正子

#### 唐木田 芳 文〈理科概論〉

教材研究と地学概論 柴田薫(他) 初教出版

地学教育の新しい展開 関利一郎 東洋館出版 地学実験の基本操作法 関利一郎(他) 東洋館出版

#### 米 谷 光 弘《保育実習》

保育所実習 珠川・田中(他) 川島書店 児童養護施設実習 松本峰雄 相川書房 社会福祉実習 原田信一(他) 相川書房 児童養護実習 斎藤謙 川島書店 保育ガイドブック 岡山県保育所保母会 川島書店 <演習>

保育学研究 守屋光雄 昭和堂 保育学原論 守屋光雄 朝倉書店 幼児の発達と指導 高橋・田中 ひかりのくに 自由な子どもの発見 山根・米谷(他)

ミネルヴァ書房

あそび保育のすすめ 守屋光雄 中央法規 <幼児体育>

3歳からはじめよう幼児の体力づくり

水谷英三 (他) ひかりのくに 新しい運動会 水谷英三 ひかりのくに 保育の中の体力づくり12ヶ月 原田碩三 中央法規 幼児体育の理論と実際 勝部美 幼稚園小学校一慣の体育指導 池田猪佐己 泰流社

<保育内容健康>

幼児教育法・健康(理論編)水谷・大段 幼児教育法・健康(実技実践編)水谷・大段

三晃書房

図説幼児健康学 原田碩三 颓明書房 からだの発達 高石昌弘(他) 大修館 健康 近藤充夫 同文社

#### 文 学 部 (国際文化)

#### 平 野 正<世界史概論>

戦間期国際政治史 斎藤孝 岩波書店 原爆投下への道 荒井信一 東大出版会 原爆はなぜ投下されたか 西島有厚 青木書店 大統領とブレーン 大根沢弥 新日本出版 アメリカの軍事戦略 マイケル・クレア

サイマル出版会

#### <地域文化概論>

穀物メジャー 石川博友 岩波書店 アメリカ小麦戦略 変嶋光雪 家の光協会 巨大穀物商社 モーガン 日本放送出版協会 新·核戦略批判 豊田利幸· 岩波書店 核の冬 ロビンソン 岩波書店

#### 土 井 仙 吉<地誌学>

日本地誌(改訂増補)藤岡謙二郎(他) 大明堂

日米欧の雇用と失業 笹島芳雄

現代生活における労働の所在 松尾均

**<**労務管理論>

現代の世界像 斎藤毅 (他) 人と経営 奥田健二 古今書院 マネジメント社 岩 尾 龍太郎 (倫理思想史) 解体する熟練 田中博秀 日本経済新聞社 OU科学史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 創元社 経営管理論史の根本問題 稲村毅 ミネルヴァ書房 牧歌・農耕詩 ウェルギリウス 未来社 労務管理 石井威望 日本規格協会 魔界・天界・不思議界バリ 管洋志 講談社 経営参加と労働組合 奥田・高堂 関西大学出版部 <文献講読Ⅱ> 後 藤 泰 二〈保険論〉 小説と民衆 フォックス 経営者支配と契約者主権 田村祐一郎 未来社 民衆演劇の機能と構造 ボボトゥイリョフ 未来社 近代生命保険業の成立 田村祐一郎 千倉書房 散文の理論 シクロフスキー せりか ロイズォブロンドン 木村栄一 日本経済新聞社 チェコ構造美学論集 ムカジョフスキー せりか アメリカの生命保険会社 古瀬政敏 魔法昔話の起源 ブロップ せりか 東洋経済新報社 松 本 達 郎<進化論> 保険事業と規制緩和 古川吉衛 同文館 現代の進化論 パターソン 岩波書店 〈企業形態論〉 日本人の起源 埴原和郎 朝日新聞社 日本の株式会社 奥村宏 東洋経済新報社 Man's place in evolution. British Museum 現代資本主義における所有と決定 北原勇 岩波書店 Cambridge Univ. Press 21世紀の日本の株式会社像 総合研究開発機構 人類進化学入門(改訂版) 埴原和郎 中央公論社 東洋経済新報社 宇宙における生命 原田馨 株式会社制度 森杲 講談社 北海道大学図書刊行会 泰 男<地域文化概講> 株式会社金融論 馬場克三 森山書店 ヨーロッパとは何か 増田四郎 浜 田 和 樹<分析会計論> 岩波書店 ヨーロッパ中世の社会史 増田四郎 会計情報システム選択論 岡部孝好 岩波書店 中央経済社 ヨーロッパ大都市への旅 横尾壮英 リクルート出版 ゼロベース予算 西澤脩 同文館 ヨーロッパの出現 樺山紘一 管理会計の基礎理論 辻厚生 講談社 中央経済社 ヨーロッパ・秋の旅 猪城博之 ヨルダン社 倒産予知のための財務分析 井端和男 <西洋中世哲学思想> 商事法務研究会 アウグスティヌスの人間学 金子晴勇 海外進出企業の財務と会計 中島省吾 創文社 アウグスティヌス 宮谷宣史 講談社 東洋経済新報社 アウグスティヌス―生涯と業績 山田晶 <演習Ⅰ·Ⅱ> 創文社 中世哲学の精神(上・下) ジルソン 筑摩書房 MAS管理技法 日本公認会計士東京会 ぎょうせい <演 習> 情報会計の理論 清水哲雄 中央経済社 アウグスチヌスと歴史的世界 近山金次 慶応通信 業績評価システムと利益計画 和井内清 ぎょうせい アウグスチヌスと第十三世紀の思想 高橋亘 創文社 資金管理論 後藤幸男 中央経済社 土 方 アウグスティヌスの政治思想 柴田平三郎 未来社 久<会計学原理> アウグスティヌス著作集(11~15巻) 最新·財務諸表論 武田隆二 中央経済社 教文館 ヘーゲル初期神学論文集 ノール 情報会計論 武田隆二 以文社 中央経済社 佐 伯 弘 次<古文書学> 法人税法精説 武田隆二 森山書店 日本古文書学講座(全11巻) 高橋正彦(他) 雄山閣 財務会計制度の展開 遠藤孝 森山書店 企業会計原則論 新井清光 森山書店 <簿記原理I> 商 学 部 簿記一般教程 武田隆二 中央経済社 貸借対照表論の研究 興津裕康 森山書店 古 林 輝 久〈経営労務論〉 財務会計の論点 武田隆二 同文館 ロボットと人間 ファルクマン 新版·勘定科目全書 中央経済社 新潮社 労働時間 斎藤一 労働科学研究所 会計処理全書 中央経済社 精神労働と肉体労働 ゾーンニレーテル 合同出版 井 上 康 男<原価計算論>

東洋経済新報社

第一書林

原価会計講義 井上康男

新版管理会計論 井上康男

<管理会計論>

同文館

同文館

経営と会計の基本問題 鍋嶋達 千倉書房 糸 園 辰 雄<中小企業論> 現代日本の流涌機構 糸園辰雄(他) 大月書店 現代日本の消費生活 柏尾昌哉(他) 大月書店 <商学総論> 流通の国際比較 田島・宮下 有裴閣 流通構造と流通政策 バソワアー 東洋経済新報社 流通費用とサービスの理論 大吹勝男 梓出版 小 森 俊 介<マーケティング論> 小売商業集積論 山中均之 千倉書房 日本型流通システム 田村正紀 千倉書房 流通におけるパワーと対立 石井淳蔵 千倉書房 小売吸引力の理論と測定 中西正雄 千倉書房 消費者行動分析のニュー・フロンティア 中西正雄 誠文堂新光社 <広告論> 現代人の情報行動 中野収 日本放送出版協会 行動理論史 南博 岩波書店 情報工学と哲学 クロッソン 培風館 認知科学の哲学 日本科学哲学会 早大出版部 認知科学の展望 ノーマン 産業図書 <演習Ⅰ> 大量生産の社会史 マイヤー(他) 東洋経済新報社 我が国商品取引所制度論 羽路駒次 晃洋書房 科学・哲学・社会 リチャード 紀伊国屋 市の社会史 ウォルフォード そしえて ・小売の輪、は回る マックネア 有裴閣 <演習Ⅱ> 消費文化論 飽戸弘 中央経済社 広告コミュニケーション ダイヤー 紀伊国屋 回帰分析のはなし 蓑谷千凰彦 東京図書 消費人類学 星野克美 東洋経済新報社 欲望社会 犬田充 中央経済社 <外書講読Ⅰ> 成熟型消費市場のマーケティング 小島健司 日本経済新聞社 マネジメント・コントロールの理論 伊丹敬之 岩波書店 日本企業の国際マーケティング 竹田志郎 同文館 社会システムの考え方 新睦人(他) 技術革新と産業社会 並木信義(他) 日本経済新聞社

大 矢 繁 夫<演習Ⅰ、Ⅱ> 現代の国際金融 安東盛人 有斐閣 21世紀の銀行像 後藤新一 有裴閣 株式会社制度 森杲 北海道大学図書刊行会 エネルギーの政治経済学 マサラート 有斐閣 世界経済と外国貿易 木下・徳永 新評論

#### 〈証券論〉

金融革命と銀行の国際化 保坂直達 銀行革命の新潮流 コンプトン 東洋経済新報社 現代企業論入門 宮崎義一 国債の累増と日本経済 日本経済調査協議会

東洋経済新報社

新評論

国際金融―理論と現実 中西市郎

佐々木 武 夫 <経営社会学>

仕事の発見シリーズ 1~6 太郎次郎社 就職しないで生きるには 1~10 晶文社 インタビュー・仕事 1~10 日本経済評論社 仕事 晶文社

#### 白 石 善 章〈商業政策総論〉

現代商業論 合力栄(他) 新評論 日本型流通システム 田村正紀 千倉書房 商業辞典 久保村隆祐 同文館

<基礎演習>

日本の産業社会 今井賢一 筑摩書房 産業社会の病理 村上泰亮 中央公論

#### 田 中 謙一郎〈演習〉

詳解演習オペレーションズ・リサーチ 守谷栄一

日本理工出版会

マイクロコンピュータの事典 田丸啓吉 朝倉書店 パソコンによるOR 牧野都治(他) 朝倉書店 入門 FORTRAN 上滝致孝 オーム社 コンピュータ史 小林功武 オーム社

<経営工学>

企業モデルとシミュレーション 守谷栄一

マグロウヒル好学社

BASIC による高速ソートプログラミング

涌井良幸 誠文堂新光社 数量経済分析の基礎 佐和隆光 筑摩書房 経営工学シリーズ19 真壁肇 日本規格協会 経済数学入門 奥口孝二(他) 有斐閣

#### 吉 武 春 光<演習 [ >

Prolog 中島秀之 産業図書 考えるコンピュータ ラファエル 近代科学社 <情報処理論>

電子計算機-ハードウェアの基礎-萩原宏(他)

オーム社

LISP で学ぶ認知心理学1・2・3

東大出版会 安西祐一郎(他) 近代科学社

LISP 入門 中西正和

<外書講読Ⅰ>

人工知能と人間Ⅰ・Ⅱ ボーデン サイエンス社 <基礎演習>

認知科学への招待 渕一博 日本放送出版協会 認知科学入門 戸田正直 サイエンス社

#### 経 済 学 部

#### 吾 郷 健 二<国際経済論>

世界経済の構造と展開 有賀定彦 ミネルヴァ書房 資源物理学入門 槌田敦 日本放送出版協会 経済人類学 栗本慎一郎 東洋経済新報社 近代世界システム I・II 岩波書店 学校・医療・交通の神話 山本哲士 新評論

<低開発経済論>

南北問題の現代的構造 本多健吉 日本評論社 メキシコからの手紙 黒沼ユリ子 岩波書店 ラテンアメリカと国際関係 西向嘉昭 晃洋書房 アフリカ経済論 犬飼一郎 大明堂 従属的蓄積と低開発 フランク 岩波書店

<演習Ⅰ>

戦後日本農業の変貌 農文協 都市と農村の間 渡辺 論創社 世界の食糧問題と日本農業 斎藤(他) 有斐閣 食をうばいかえす 安達巌 有斐閣 有機農業革命 梁瀬義亮 ダイヤモンド

<演習Ⅱ>

ペシオドス研究序説 広川洋一 未来社 ギリシャ思想の生誕 広川洋一 河出新社 ギリシャ神話の世界観 藤縄謙三 新潮社 科学はかわる 高木仁三郎 東洋経済新報社

<外書講読Ⅰ>

大転換 ポラニー 東洋経済新報社 経済人類学 栗本慎一郎 東洋経済新報社 経済体制の理論 ドールトン サイマル出版会

江 副 憲 昭〈価格理論〉

まクロ経済学入門 武野秀樹 中央経済 現代経済学要論 江副憲昭 中央経済 まクロ経済学入門 (上・下) ギル 東洋経済新報社 経済学は現実にこたえうるか 伊東光晴 岩波書店 企業の経済学 青木・伊丹 岩波書店

古 川 卓 萬<財政学総論>

現代財政·税制論

佐藤進教授還歴記念論文集刊行委員会

税務経理協会

戦後日本の租税構造 林栄夫 有斐閣 図表解説・これからの財政と国債発行

財政政策研究会 大蔵財務協会

<演習 I · Ⅱ >

税制改革の構想 野口悠紀雄 東洋経済新報社 公平・簡素および経済成長のための税制改革

アメリカ財務省 今日社 現代西ドイツ地方財政論 伊東弘文 文真堂 井 坂 文 夫<近代経済学実習Ⅰ>

国家上級公務員專門試験問題集 資格試験研究会

実務教育出版

地方上級公務員専門試験問題集 資格試験研究会

実務教育出版

公務員試験経済原論専門科目別問題集 加藤寛

実務教育出版

重要テーマ別経済原論の頻出問題 青山護

実務教育出版

<国民所得論>

経済変動観測資料年報 経済企画庁 大蔵省印刷局 昭和55年基準改定国民経済計算報告 経済企画庁

大蔵省印刷局

国民経済計算年報 経済企画庁 経済統計年報 日本銀行

大蔵省印刷局

経済統計年鑑 東洋経済新報

日本銀行 東洋経済新報社

<外書講読 I ・Ⅱ >

Economics, 12th ed. Samuelson (他)

McGraw-Hill

 Economics. Fischer (他)
 McGraw-Hill

 近代経済学 新開 (他)
 有斐閣

 入門マクロ経済学 中谷厳
 日本評論社

 入門価格理論 倉澤資成
 日本評論社

<演習Ⅰ>

 金融政策の理論
 館龍一郎
 東大出版会

 分析日本経済
 新保生二
 東洋経済新報社

 所得分析
 小泉進(他)
 岩波書店

 金融
 館龍一郎(他)
 岩波書店

 マクロ経済学研究
 吉川洋
 東大出版会

<演習Ⅱ>

ゼミナール日本経済入門 日本経済新聞社

日本経済新聞社

経済白書(昭和60年度) 経済企画庁 大蔵省印刷局 経済白書(昭和61年度) 経済企画庁 大蔵省印刷局 世界経済白書(昭和60年版) 経済企画庁

大蔵省印刷局

経済を見る100の指標 日本経済新聞社

日本経済新聞社

岩 元 和 秋<地方財政論>

 日本地方財政論
 岩元和秋
 同文館

 現代日本地方財政論
 岩元和秋
 有斐閣

 地方財政総論
 佐藤進
 税務経理協会

 財政と財政学
 武田隆夫
 東大出版会

<演習Ⅰ・Ⅱ>

経済ゼミナール「財政」佐藤進(他)東洋経済新報社 図表解説「これからの財政と国債発行」改訂版

財政政策研究会 大蔵財務協会 戦後・税制史(増補版)佐藤進 税務経理協会 日本の税金 佐藤進

東大出版会

#### 

社会政策の思想と歴史 山田高生(他) 千倉書房 現代の失業 小池和男 同文館 ILO世界労働報告1・2巻 ILO日本労働協会 西ドイツ労働の人間化 吉田修 森山書店

<社会政策各論>

 労働白書(60年版)
 労働省
 日本労働協会

 厚生白書(60年版)
 厚生省
 大蔵省印刷局

 国民生活白書(60年度)
 経済企画庁
 大蔵省印刷局

 婦人労働の実情(60年度)
 労働省
 大蔵省印刷局

 海外労働白書(60年度)
 労働省
 日本労働協会

#### 松 原 宏<演習Ⅰ・Ⅱ>

これからの大都市 (ジュリスト増刊総合特集)

有斐閣

国民の経済白書 1985年度(経済評論増刊)

日本評論社

都市経済論 柴田徳衛 有斐閣 大都市の衰退と再生 大阪市大経済研究所

東大出版会

東京問題 小宮昌平

大月書店

## 仲 澤 幸 壽<演習 1 >

租税政策の効果 石弘光 東洋経済新報社 日本の金融政策 堀内昭義 東洋経済新報社 為替ルートと金融市場 深尾光洋 東洋経済新報社 貿易論 天野明弘 筑摩書房 金融政策の理論 館龍一郎 東大出版会

#### <厚生経済学>

厚生経済学と社会選択論 フェルドマン

McGrow-Hill

有斐閣

公共政策 野口悠紀雄 岩波書店 公正としての正義 ロールズ 木鐸社 決定の政治経済学 曽根泰教 有斐閣 租税の経済学 石弘光(他) 岩波書店

#### 柴 田 徳太郎 < 外書講読 1 >

人間復興の経済 シューマッハー 佑学社 市場志向からの脱出 玉野井芳郎 ミネルヴァ書房 人間の経済 I・II ポランニー 岩波書店 経済英語の構文 清水・早野 南雲堂 史的システムとしての資本主義 ウォーラーステイン 岩波書店

#### <演習Ⅱ>

インフレーションの話 田添大三郎 日本経済新聞社 インフレーションとは何か 川合一郎 岩波書店 インターナショナル・バンキング 布目真生 有斐閣 金の世界 島崎久弥 有斐閣 現代世界のインフレーション 現代インフレ研究会

#### <金融論>

現代金融の理論と構造 志村(他) 東洋経済新報社 イギリス再建金本位制の研究 吉沢法生 新評論 金融機構の理論 山口重克 東大出版会 金融論 川口弘 筑摩書房 現代日本金融論 鈴木淑夫 東洋経済新報社

ゼミナール・日本経済入門 日本経済新聞社

日本経済新聞社

レーガン政策下の日本経済 吉富勝 東洋経済新報社 東京マネー・マーケット新版 森田達郎 有斐閣 円・ドル合意後の金融市場 バーグステン

東洋経済新報社

金融革命と銀行の国際化 保坂直達 有斐閣

#### 新 谷 正 彦<計量経済学>

経済モデルの推定と検定 森棟公夫 共立出版 多変量解析入門 福場庸(他) 培風館 計量経済学の方法 上・下 ジョンストン

東洋経済新報社

計量経済学序説 ウォナコット 培風館 多変量解析法(改定版) 奥野忠一(他) 日科技連 続多変量解析法 奥野忠一(他) 日科技連

#### <経済統計論>

初等統計解析(改訂版) 佐和隆光新曜社回帰分析入門 中村正一日刊工業新聞社涙なしの統計学 加納悟啓明社統計学講話現代教学社生活の統計学 依田浩光生館

#### <演習Ⅰ>

やさしい PASCAL 西川学 日本経済新聞社 PASCAL 入門 川合慧 共立出版 PASCAL プログラミング講義 森口繁一(他) 共立出版

PASCAL プログラミング対話 森口繁一(他) 共立出版

PASCAL 原田覧一 (訳) 培風館

<演習Ⅱ>

 VAN 松下温
 培風館

 コンピュータは考える 黒川利明
 培風館

 情報科学概論 小野厚夫(他)
 培風館

 改訂・コンピュータサイエンス入門(1)・(2)

浦昭二(訳) 培風館

#### <外書講読Ⅰ>

サミュエルソン経済学(最新版)都留重人(訳)

岩波書店

### 法 学 部

太 子 即	
平 田 勝 雅<刑事政策>	
	成文堂
犯罪者処遇の思想 坂田仁	慶応通信
刑事政策概論 藤本哲也	青林書院
<刑事訴訟法>	
条解刑事訴訟法 松尾浩也	弘文堂
刑事訴訟 横川敏雄	成文堂
捜査の構造 田宮祐	有斐閣
新刑事訴訟法網要 団藤重光	創文社
堀 真 清<外交史>	
日本外交30年 外務省戦後外交史研究会	
tti	界の動き社
韓国文化史 地明観	高麗書林
芦田均日記(全7巻)	岩波書店
<政治史>	
なぜ日本は「成功」したか? 森嶋通夫	:
TBS	ブリタニカ
日本は蘇るか 河原宏	頸草書房
近衛新体制と大政翼賛会 赤木須留喜	岩波書店
今 井 威<憲法>	
新訂現代憲法論 レーヴェンシュタイン	有信堂
憲法と司法権 佐藤幸治	日本評論社
憲法訴訟の理論 芦部信喜	有斐閣
憲法Ⅱ 人権(1) 芦部信喜	有斐閣
憲法Ⅲ 人権(2) 芦部信喜	有斐閣
神 宮 典 夫<演習 (ローマ法)>	
ローマ帝国の国家と社会 弓削達	岩波書店
ローマ帝国衰亡史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ギボン	筑摩書房
	中央公論社
<西洋法制史(ローマ)	
ローマの共和政 ブライケン 世界の戦争(ローマ編) 吉村忠典	山川出版
世界の戦争(ローマ編) 吉村忠典	
支配の天才ローマ人 吉村忠典	三省堂
ローマ帝国、或る帝国主義の歴史 ボー	-ルスドン
	平凡社
素顔のローマ人 弓削達	河出書房
<外書講読>	
生活の世界史一素顔のローマ人	河出書房
川 上 宏二郎<行政法Ⅱ>	
市民生活と行政法 関哲夫	学陽書房
行政法概論 I 綿貫·木村	ぎょうせい
行政法各論 小高剛	有斐閣
行政法散歩 塩野・原田	有斐閣

日本行政法(中) 田村・澤田

<地方自治法>

晃洋書房

現代地方自治入門 室井・原野 法律文化社 新版・行政法(3) 南・原田・田村 有斐閣 地方自治法を学ぶ 下山・田村 有斐閣 自治体行政の法と制度 原田・兼子 学陽書房 地方自治その法としくみ 原田尚彦 学陽書房 〈演習(行政法)〉 行政の法理 雄川一郎 有斐閣 行政争訟の理論 雄川一郎 有斐閣 行政救済の実効性 阿部泰隆 弘文堂 行政事件訴訟法体系 渡部·園部 西神田編集室 新版・行政法(3) 南・原田・田村 有斐閣 <基礎演習(法学)> 法のタテマエとホンネ(増補版) 柴田光蔵 有斐閣 法社会学 六本佳平 有斐閣 河 島 幸 夫<政治学原論> 統合と抵抗の政治学 平井友義(他) 有斐閣 危機の政治学 安部博純(他) 昭和堂 戦争と平和の政治学 田中勇 芦書房 みすず書房 ウェーバーとトレルチ 柳父圀近 いま日本人であること 宮田光雄 岩波書店 <政治思想史> 政治思想史 山崎時彦 昭和堂 中世の政治理論 ギールケ ミネルヴァ書房 宗教改革 ウォーカー ヨルダン社 イギリスとドイツの政治思想 多田真鋤 南窓社 聖書の人権思想 大河原礼三 木鐸社 〈基礎演習〉 ヴィヘルン著作選集(1) キリスト新聞社 ワイマール・ドイツの回想 新明正道 恒星社厚生閣 ドイツ青年運動 ラカー 人文書院 1930年代の光と影 清水多吉 河出新社 戦後ドイツの改党制 加藤秀治郎 学陽書房 <外書講読Ⅱ> ドイツにヒトラーがいたとき 篠原正瑛 誠文堂新光社 ヒトラー政権下の日常生活 フォッケ 社会思想社 第二次世界大戦 テイラー 新評論 ヨーロッパ文明Ⅰ・Ⅱ リヒトハイム みすず書房 <演習> ドイツ教会闘争の研究 宮田光雄 創文社 白バラの声 ショル 新曜社 戦時下キリスト教の抵抗と挫折 金田隆一 新教出版社 ボンヘッファーの世界 ベートゲ 新教出版社 ボンヘッファー家の運命 ライプホルツ 新教出版社 古 賀 衛 (国際法日) 国際法講義(上・下) 田畑茂二郎 有信堂 有斐閣 国際法 山本草二

国際法概論(上・下) 高野雄一

弘文堂

基本判例双書·国際法 宮崎繁樹 有斐閣 同文館 団結権侵害とその救済 外尾健一 不当労働行為の法理 外尾健一 国際司法裁判所 高野雄一 有斐閣 東大出版会 小 杉 茂 雄<民法丁> ロックアウト法理の再検討 浅井清信 法律文化社 民法総則講義 鈴木禄弥 創文社 <労働法Ⅱ> 民法総則(青林教科書シリーズ) 遠藤浩(他) 労働基準法の課題と展望 青木宗也先生還曆記念論文刊行委員会(編) 青林書院 民法講義・総則(1) 米倉明 有斐閣 日本評論社 <民法Ⅱ> 労働災害補償法論 物権法講義(三訂版) 鈴木禄弥 窪田隼人先生還暦記念論文刊行委員会(編) 創文社 物権法(基本法学双書) 林良平 青林書院 法律文化社 物権法(青林教科書シリーズ) 水本浩(他) 青林書院 労働契約論の研究 <民法Ⅲ> 本多淳亮先生還曆記念論文刊行委員会(編) 民法セミナー4(債権総論)水本浩 一粒社 法律文化社 民法講座第4巻(債権総論) 星野英一 有斐閣 現代の生存権 <民法V> 荒木誠之先生還曆記念論文刊行委員会(編) 親族法(民法学全集) 久責忠彦 日本評論社 法律文化社 フランスの家族法 稲本洋之助 東大出版会 労働契約法の理論 下井降史 有裴閣 <外書講読> 田 村 茂 夫<演習> 英米法総論(上)・(下) 田中英夫 英米法(改訂版) 望月礼二郎 青林書院 東大出版会 英米法(現代法学全集) 伊藤正己(他) 筑摩書房 英米契約法の理論(2版) 木下毅 東大出版会 西 山 雅 明〈基礎演習〉 ドイツ法概論 I 山田昆 有裴閣 やさしい法学通論 穂積重遠 有斐閣 フランス債権法 山口俊夫 東大出版会 法窓夜話 穂積陳重 <商法I> 岩波書店 続法窓夜話 穂積陳重 コンメンタール商法総則 田中誠二(他) 勁草書房 岩波書店 復讐と法律 穂積陳重 岩波書店 コンメンタール商行為法 田中誠二(他) 勁草書房 法律講話 戒能通孝 日本評論社 商事法の解釈と展望 有斐閣 <刑法Ⅰ> 八十年代商事法の諸相 有斐閣 犯罪論の基本問題 大塚仁 有裴閣 <商法Ⅱ> 大塚刑法学の検討 中山研一 成文堂 日本の株式会社 奥村宏 東洋経済新報社 刑法概説総論(増補版)大塚仁 有斐閣 コンメンタール証券取引法 田中誠二(他)勁草書房 口述刑法総論(第2版)中山研一 コンメンタール会社法(四全訂) 田中誠二(他) 成文堂 刑法学のあゆみ 町野・中森・三井 有斐閣 勁草書房 高 橋 貞 夫〈基礎演習〉 株式会社法教材 河本一郎 商事法務研究会 法の窮極に在るもの 尾高朝雄 有裴閣 大企業社会の法秩序 小島康裕 勁草書房 現代法理論 田中成明 有斐閣 田 辺 康 平<商法Ⅲ> 法社会学 六本佳平 有斐閣 手形法·小切手法 石井照久(他) 勁草書房 手形法·小切手法 木内宜彦 各国法制にみる職場の男女平等 森山真弓 勁草書房 東京布井出版 手形法:小切手法入門 前田庸 有裴閣 男女雇用の平等 道田信一郎 新潮社 新版·手形法·小切手法講義 小橋一郎 有信堂高文社 <演 習> 演習商法(手形小切手) 鴻常夫(他) 青林書院 労働基準法の問題点と対策の方向 <商注IV> 労働省労働基準局 日本労働協会 航空賠償責任法論 前田勝利 有裴閣 詳解労働者派遣法 高梨昌 日本労働協会 現代保険法 田辺康平 文真堂 詳説男女機会均等法及び改正労働基準法 赤松良子 正文有限会社法解説 服部栄三(他) 日本評論社 日本労働協会 新損害保険双書Ⅰ~Ⅲ 田辺康平(他) 文真堂 <労働法 I > 商事法の諸問題 石井照久先生追悼記念 有裴閣 労働法 管野和夫 弘文堂 < 演 習> 労働法講義2 角田邦重(他) 有裴閣 会社法 · 小切手法論集 上柳克郎 有裴閣 手形・小切手法 服部栄三 文真堂 裁判手形法 坂井芳雄 一粒社 コンメンタール手形法 田中誠二(他) 勁草書房 判例商法Ⅱ 竹内昭夫 弘文堂

<商法B>

基本判例双書手形·小切手法 酒巻俊雄 同文館 手形法·小切手法(現代商法講義3) 蓮井良憲

法律文化社

分析と展開商法Ⅱ(手形・小切手法)

倉沢康一郎(他) 弘文堂 商行為法 I 神崎克郎 有斐閣

商行為法 上・下(商法V-1、商法V-2)

石井照久(他) 勁草書房

山 田 洋<憲法>

憲法の現代的課題 小林直樹先生還暦記念 有斐閣 憲法訴訟と人権の理論 芦部信喜先生還暦記念

有斐閣

日本国憲法の理論 佐藤功先生古希記念 有斐閣 憲法の基本判例 別冊法学教室 有斐閣

<行政法 I >

行政の法理 雄川一郎 有斐閣

 行政争訟の理論
 雄川一郎
 有斐閣

 現代行政法体系
 雄川一郎(他)
 有斐閣

 行政法理論の再構成
 高柳信一
 岩波書店

 判例ノート行政法
 市原昌三郎
 法学書院

<演 習>

判例コンメンタール行政事件訴訟法 阿部泰隆(他)

三省堂

行政事件訴訟法体系 園部逸夫(他) 西神田編集室 近代行政裁判制度の研究 村上順 成文堂 行政救済の実効性 阿部泰隆 弘文堂 住民訴訟の諸問題 金子芳雄 慶応通信

<外書講読Ⅰ>

Freedom of Expression in Japan. Beer 講談社

#### 教 職 課 程

土 井 仙 吉<地理学>

現代地理学の基礎 木村辰夫(他) 大明堂 最近の地理学 坂本英夫(他) 大明堂